

「生き生きと活動する児童の育成」

～コミュニケーション能力の向上をめざす英語科学習のあり方～

I 研究の内容

1 研究の目的

授業実践しながら英語科学習のあり方を探ることにより、児童のコミュニケーション能力の向上をめざす。

2 研究の内容

◎山梨市版小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】を実践する。

- ・教育課程を実践し、全単位時間計画をまとめる。
- ・作成した評価規準を使って授業研究を行う。
- ・指導方法や形態，教材・教具の工夫をする。
- ・4技能を関連させた効果的な指導方法を工夫する。
- ・「読む」「書く」に使用する単語を明確し、単元一覧表を完成する。
- ・評価の内容や方法を研究する。

3 研究の方法

<全体研究>

- ・授業研究を行い、研究主題を追究する。
- ・部会研究の内容を交流し合い、共通理解を持つ。
- ・一人一実践を実施し、英語科の授業力を高める。
- ・拡大研究会を実施する。 研究授業 2学級

<部会研究>

- ・低学年と高学年の部会に分かれ、授業研究を行う。
- ・授業案検討は部会研究で行う。

◎授業のポイントとして

- ・「低」・「聞く」「話す」活動を中心とした授業内容を検討する。
- ・「高」・「読む」「書く」活動を取り入れた授業内容を検討する。
- ・少人数を生かした望ましい授業形態を作り上げる。
- ・日常生活に適応した場面づくりを行い、ストーリー性のある授業を実践する。
- ・「書く」活動において、ALTやJTEを効果的に位置づける。
- ・適切な評価方法を工夫し、目標 指導 評価の一体化を図る。
- ・授業研究における観察の視点が、明確になるようにする。

＜児童の実態調査＞

- ・ 5月と1月の年2回実施し、児童の変容を見取る。
- ・ 指導目標に照らし合わせて分析や考察を行い、どのように変容したかを見取る。
- ・ 集団だけでなく、個人の変容も見取っていく。

II 成果と課題

1 成果

◆山梨市版小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】の実践について

- ・ 山梨市版小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】に基づいた授業実践を通し、全単位時間計画を完成することができた。
- ・ 全担任が、山梨市版小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】に基づいた研究授業を校内で公開し合い、互いの研究を深めた。
- ・ 11月24日の拡大研究会においては、県内より132名の参加をいただき、3年間の研究内容を公開した。直山木綿子教科調査官をはじめ、多くの方々からご指導をいただいた。

◆「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能の指導について

- ・ 学習内容の定着を図るためには、「聞く」「話す」「読む」「書く」技能が、相互に関連し合う必要がある。そこで、単元全体や1時間の学習の中で、ストーリー性を持たせ4つの技能を絡ませながら、単元の目標に迫っていくように指導計画を作成した。
- ・ 「書くこと」については、昨年度より3年生以上で「4線上に正しく書き写す」ことを目標に取り組んできた。今年度は、「アルファベットソング」を開発し、授業に取り入れたことで児童の関心意欲がより高まった。

◆評価の工夫について

- ・ 各学年の単元別の評価規準、毎時間の評価規準を明確にし、さらには、毎時間の授業の「どこで何（観点）をどうやって見取り（方法）」「どの程度に達したならば、達成できたかという判定をするか」という具体的な姿を授業案に明記した。それにより指導者が授業の中で求める児童の具体的な姿がはっきりし、どのように指導していけばよいのかも、より明確になった。

2 課題

- ・ 学習内容の定着をめざすために、4技能の指導のあり方をさらに深める必要がある。
- ・ 今年度は、山梨北中の英語担当の先生方に専門的な助言をもらいながら研究を進めることができた。来年度以降、英語科の円滑な接続ができるように小中の連携をさらに進めていきたい。

III 成果物

- ・ 山梨市版小学校英語科学習指導要領【岩手小プラン】
- ・ 英語科年間指導計画 各学年単元一覧表
- ・ 全単位時間計画
- ・ アルファベットソング 「小文字編」「大文字編」
- ・ 学習内容の中学校との連携表

(研究主任 廣瀬明子)